

# イデックスオイルレポート ~For a week~

株新出光

## 【概況】

●10日、米政府は10日、ウクライナ侵攻を続けるロシアへの追加経済制裁を発表。同国の石油大手ガスプロムネフチ、スルグトネフテガスの2社と各子会社を新たに制裁対象とし、米国内の資産を凍結するほか、米国内外の金融機関との取引を制限する。英国も追随し、同様の措置を取った。米政府は加えて、西側諸国の制裁を回避してロシア産原油の取引を続ける「影の船団」への取り締まりも強化。取引業者や海上保険会社、タンカー183隻が制裁の対象となり、ロシア産エネルギー輸出に影響が出るとの警戒感が台頭する中、相場は76.57ドルへ続伸した。

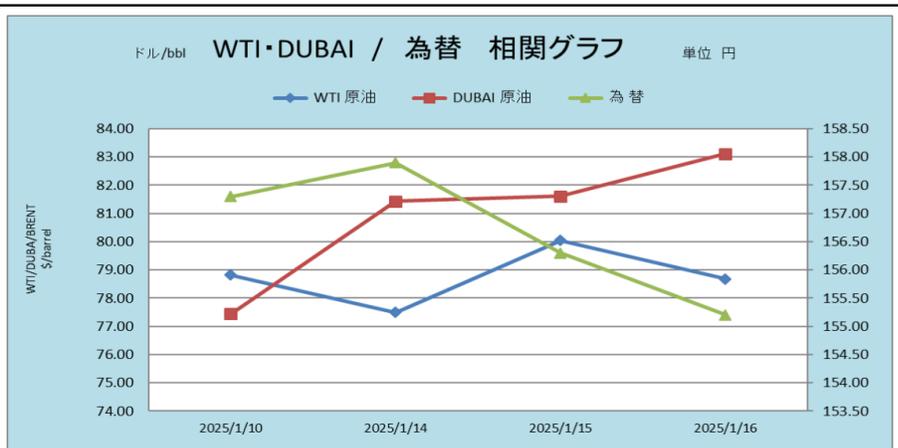
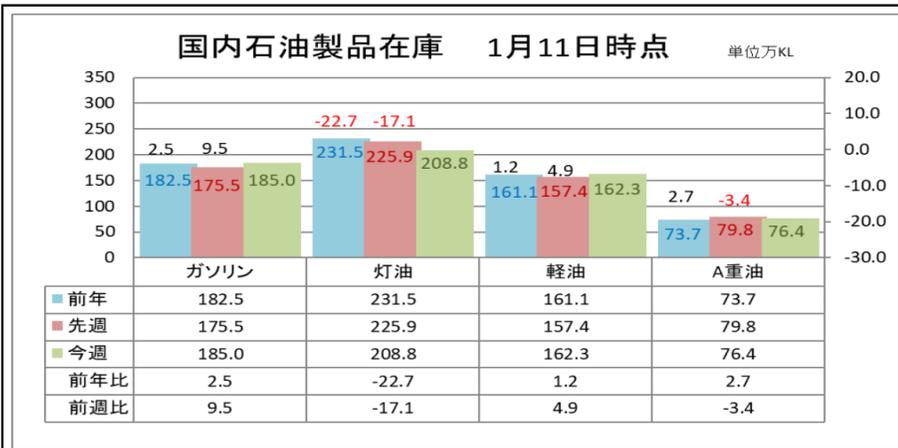
●13日、ウクライナ侵攻を続けるロシアへの追加経済制裁について、ロイター通信が金融機関の試算として報じたところによると、これらの輸送総量は日量170万バレル。ロシアからの輸出全体の4分の1に相当し、主要な買い手であるインドと中国がエネルギー資源の調達先を中東やアフリカ、米州に振り向ければ、油価や輸送費の上昇を招くとの警戒感が強く相場は78.82ドルへ続伸した。

●14日、米政府が前週末10日、対ロシア追加制裁を発表した。制裁対象に183隻のタンカーが入っていたことでロシア産原油の供給減少をめぐる懸念が高まり、原油相場は前日に中心限月清算値ベースで5カ月ぶりの高値水準を付けた。この日は短期間で急速に買われてきたとの見方から、利益確定の売りや持ち高調整目的の売りが優勢となり相場は77.5ドルへ反落した。

●15日、米政府は前週末10日、対ロシア追加制裁を発表。制裁対象に183隻のタンカーが含まれた。こうした中で、国際エネルギー機関(IEA)は15日、ロシア産石油の供給網が深刻な混乱に陥り、国際市場の需給が逼迫する可能性があるとして指摘。これを受けて世界的な供給懸念が改めて強まり、原油買いが活発化した。また、米長期金利の低下を受けてドル安・ユーロ高が進む場面もあり、ドル建てで取引される原油の割安感を意識した買いも入り相場は80.04ドルへ大幅に反発した。

●16日、海上保安当局者はロイター通信に対し、イスラエルとイスラム組織ハマスが停戦入りで合意したことを受けて、フーシ派が紅海における船舶への攻撃を停止すると予想していると明らかにした。同派による軍事攻撃により、海運各社は船舶を紅海から南アフリカの喜望峰回りに変更することを余儀なくされていた。市場関係者の間からは、イスラエルとハマス間での停戦締結をきっかけに、中東の供給混乱を巡る懸念から積み上がっていたリスクプレミアムが剥がれ落ちる格好となったとの指摘が聞かれた。また、前日には約5カ月ぶりに80ドル台を付けた反動から、利益確定の売りも出て相場は78.68ドルへ反落した。

1月17日 16:00現在 WTI原油 79.25ドル 為替 1ドル 156.25円



	次回元売変動予測	
	1/23日～	元売変動予測
ガソリン	→	+0.0～+0.5
灯油	→	+0.0～+0.5
軽油	→	+0.0～+0.5
A重油	→	+0.0～+0.5
LSA	→	+0.0～+0.5

## 【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+2.5円」、補助金は、「-16.5円・0%」、都合「+3.4円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの14日時点の小売価格平均は180.7円となった。

《1月23日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「+4.0円～+4.5円」、激変緩和補助金は「-20.5円・0%」の見込みで、都合「+0円～+0.5円」の改定予測となった。

※原油コスト「+1.5円～+2.0円」  
 ※激変緩和補助金「-16.8円」前週比+0.6円  
 ※現時点での予測です。

## 【次世代エネルギー】 < INPEX、ブルー水素を年10万トン国内生産 環境負荷低く >

INPEXは、2031年までにブルー水素の商用生産を国内で開始する計画を発表した。これは、再生可能エネルギーで生成されるグリーン水素のコスト高騰を背景に、脱炭素の現実的な解としてブルー水素に焦点を当てる取り組みである。ブルー水素は、天然ガスから作られる際に発生する二酸化炭素を回収・貯留することで、排出量を実質ゼロにすることが特長である。

新潟県柏崎市での実証プラントでは、天然ガスを用いた水素生産の際に生じるCO2の9割以上を回収し、停止中のガス田に圧入して天然ガスの押し出しを検証中である。この実証実験に基づき、INPEXは2025年に商用プラントの設計を開始し、最大10万トン規模の生産開始を目指している。

政府は脱炭素化のためにグリーン水素とブルー水素の価格差を補助する予定で、INPEXはこの支援を活用して販売価格の抑制を図る方針である。また、海外ではテキサス州やアブダビでのブルー水素生産を準備中で、特に中東の再生エネの豊富さを活かしながら採算面での優位性を追求している。

国際的な視点では、グリーン水素の生産量はブルー水素の約3倍となる見込みですが、インフレや資材価格の高騰によりコストが増しており、多くのプロジェクトが見直しを余儀なくされている。特に、欧州や豪州などでの生産計画が縮小され、デンマーク洋上風力大手オーステッドの撤退やフランス電力大手のエンジーは目標を引き下げている。IEAの2050年脱炭素目標達成には尚多くの製造設備が必要ですが、現状ではこれが追いついていない状況である。